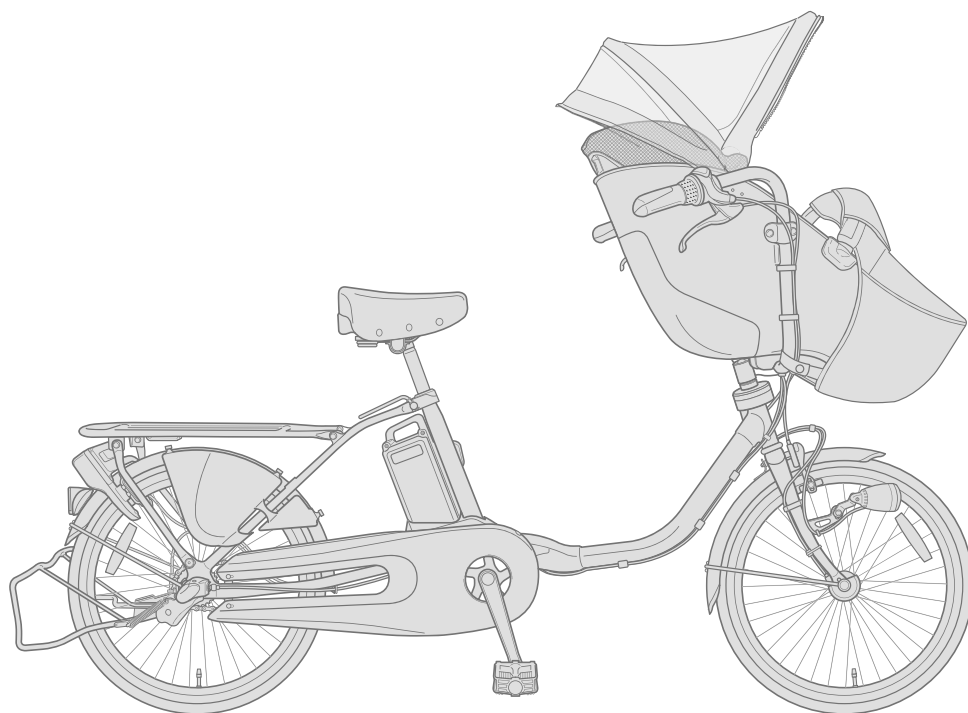


取扱説明書 電動アシスト自転車

品番
ギョット・クルーム・EX BE-FFE031



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用まえに「安全上のご注意」(4～23 ページ) を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニックの会員サイト「**CLUB Panasonic**」で「**商品登録**」をお願いします

特典

- お持ちの家電商品、消耗品情報が一元管理できる!
- 登録商品に関するお知らせやサポート情報が入手できる!
- 登録者限定のキャンペーンに参加できる!

詳しくはこちら
<https://club.panasonic.jp/aiyo/>



はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください（法令で義務付けられています）。

- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。

乗せる・走る・降りすを、いつも安全、快適に♪

乗せやすく 降りしやすい

低床設計で、お子様を持ち上げる際にかかる負荷を軽減。

こぎ出し 軽やか

強いアシスト力で、お子様を乗せていてもこぎ出し軽やか。

なめらかな 走行感

3つのセンサーでアシスト力を調整し、加速をなめらかに。

電動アシストが 切れても安心

電動アシストが切れても昼間は一般の自転車と同様、快適に走行できます。

もくじ

ご使用のまえに

安全上のご注意	4
使用上のお願い	24
各部のなまえとはたらき	26
■付属品	28

乗るまえに

乗るまえの点検と調整	37
充電しましょう	45
■バッテリーの残量について	49
荷物やお子様を乗せるとき	51

乗りかた

さあ、乗りましょう！	60
ブレーキのかけかた	64
変速のしかた	66
アシストの強さを変える	67
走行できる距離の目安	69

乗り終わったら

駐輪・施錠のしかた	71
-----------	----

必要なとき

お手入れについて	74	別売品（アクセサリ）	90
注油について	78	定期点検について	92
故障かな？	79	自転車安全基準／BAAマーク／点検整備済TSマークのご紹介	93
運搬／保管／廃棄について	84	盗難補償優遇制度について	94
バッテリーについて	86	保証とアフターサービス	95
仕様	88		

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



危険 「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。



警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気を付けていただく内容です。



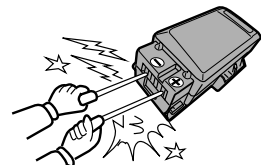
危険

バッテリーについて



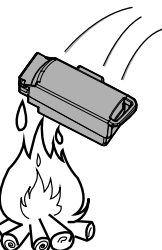
禁止

■(+)と(-)を金属などで接触させない



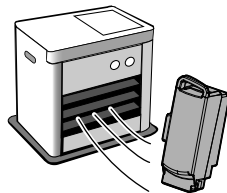
(発熱、発火、破裂の原因)
⇒ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

■火への投入、加熱をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない



(発熱、発火、破裂の原因)

■落下させない

(発熱、発火、破裂の原因)



禁止

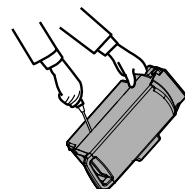
■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器と専用アダプターでの接続以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)
⇒別売品(90 ページ)の USB 出力アダプターを介しての USB 対応機器への給電は可能です。

■専用の充電器以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■再生・リサイクルバッテリーは使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

充電器について



禁止

■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対にしない

(バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるけがの原因)



警告

バッテリーについて



禁止

■水を入れたり、水中に投下したりしない



(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
⇒バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

■傷ついたまま使用しない

(ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

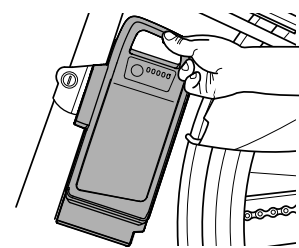
■大雨などで自転車本体(バッテリー部)が水につかった場合、使用しない

(不意にアシストが停止する場合があります、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)
⇒本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。



必ず守る

■確実に自転車に装着されているか確認する



(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電器について



禁止

■電源コードを充電器本体に巻き付けて保管しない

(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

■充電中はカバーをしったり、上に物を置いたりしない

(内部が発熱し、火災のおそれ)

■充電中は引火のおそれがあるものを近づけない

(スパークし、火災や爆発の原因)

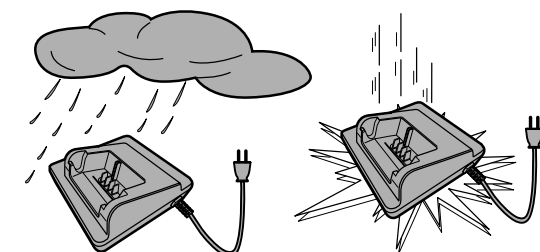
■分解、改造は絶対にしない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれ)

■以下のようなことはしない

●衝撃を与えること ●落下 ●水ぬれ
●高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかかる場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)



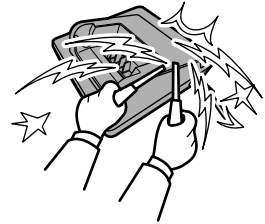
警告

充電器について



禁止

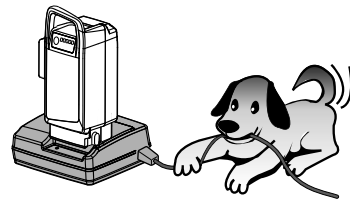
■充電端子を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない



(発熱、発火、感電のおそれ)

⇒充電しないときは、端子カバー(別売品) 90 ページ) をかぶせておくことをお勧めします。

■幼児やペットが触れる所に放置しない



(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因)

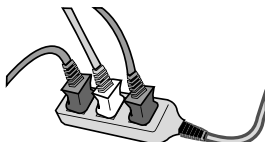
■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)



(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

⇒電源コードなど単体での修理・交換はできません。電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使用いかたや、家庭用の交流 100 V 以外での使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因)



ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

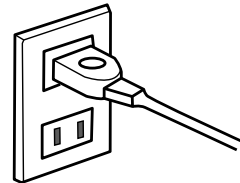


(感電のおそれ)



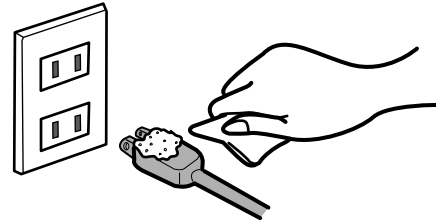
必ず守る

■電源プラグは根元まで確実に差し込む



(接触不良による感電や火災の原因)

■充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



(ほこりがたまり、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

⇒電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■充電中に次の異常を感じたら充電を中止する(異音・異臭・煙の発生など)

(火災や爆発の原因)

⇒充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



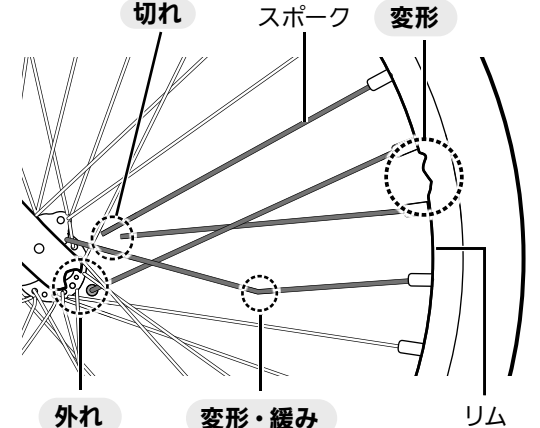
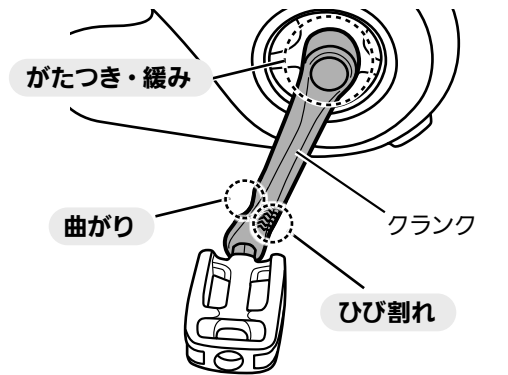
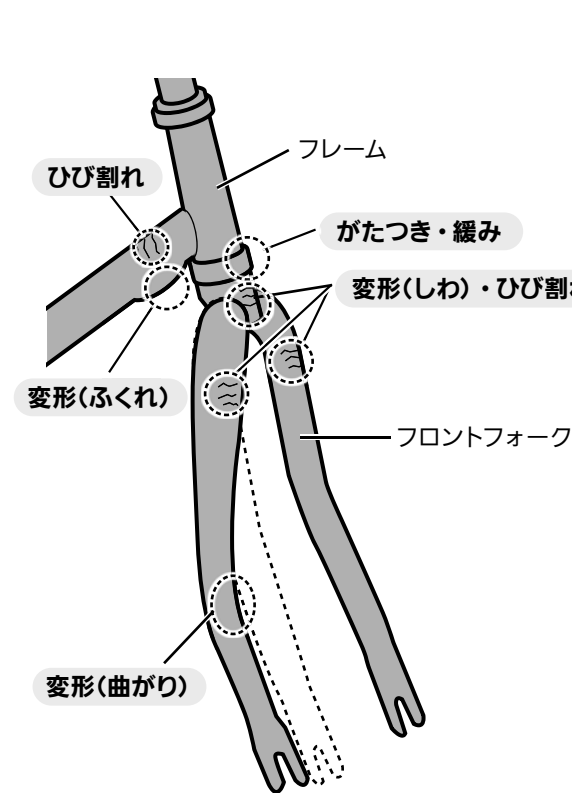
警告

自転車本体について



禁止

■各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。

⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無いか点検してください。

⇒スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

⇒ハンドルやサドルを締め付けてもがたつき・緩み・ずれがあるとき、またハンドルの回転が重い・引っ掛かりがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検してください。

■調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

●車輪 / サドル / バッテリーライト / リヤキャリア / ハンドル / フロントフォーク / クランク など
(転倒や部品や物が落下し、けがのおそれ)



必ず守る

■次の様なときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき

●ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき

(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損、駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

■定期点検の時期以外でも、激しい使用後は常に点検をする(受ける)

(異常や破損によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

自転車本体について



禁止

■改造や分解はしない

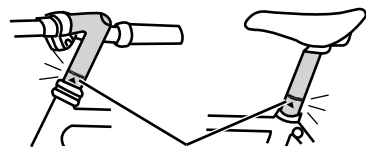


(部品の破損や、ブレーキが利かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれ)

■回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)
⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

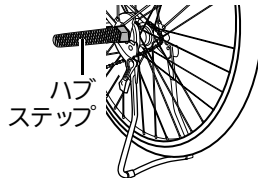
■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない



はめ合わせ限界標識

(シートポストやハンドルステムの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

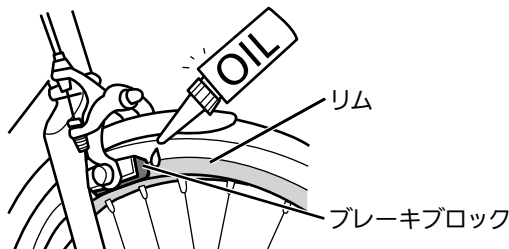
■ハブステップなどの突出物を装着しない



ハブステップ

(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)

■注油禁止場所(リムやブレーキブロックのゴム部など)に注油しない



リム

ブレーキブロック

(ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれ)



禁止

自転車本体について

■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない

ブレーキブロック



著しい摩耗

リム交換マーク(溝)

(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)
⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

バッテリーライトについて



禁止

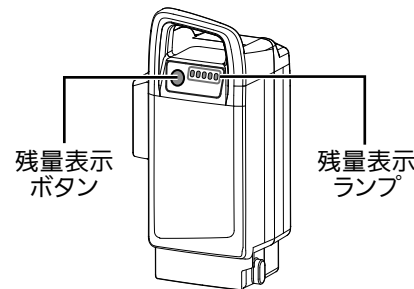
■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない

(前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■ライトの光を見続けられない

(目を痛める原因)

■夜間走行する場合、バッテリー残量が少ない状態のときには乗車しない



残量表示ボタン

残量表示ランプ

(消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。
無灯火での夜間走行は、法令違反になります。
⇒走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。



警告

ブレーキについて



禁止

■前後ブレーキの作動を確認せずに乗らない*

■ブレーキレバーの遊びが大きいまや、小さいままで走行しない*

■タイヤやブレーキから異音がある場合は使用しない*

※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■前ブレーキだけを強くかけない

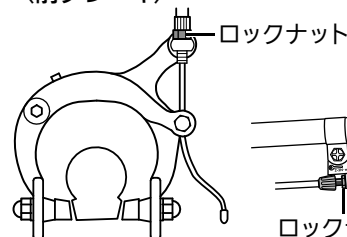
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)



必ず守る

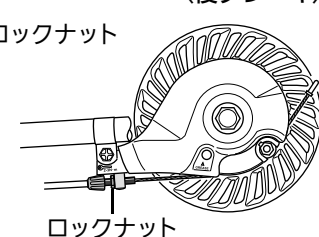
■前後ブレーキのロックナットは確実に締め付ける(41 ページ)

〈前ブレーキ〉



ロックナット

〈後ブレーキ〉



ロックナット

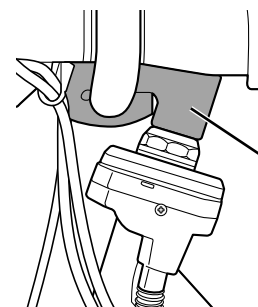
(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ハンドルについて



必ず守る

■ハンドルステムは、必ず最も下げた状態で取り付ける



ハンドルステム

(ハンドルステムの折れにより転倒し、けがのおそれ)

ラックシステムについて

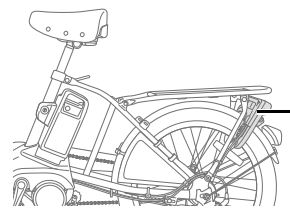


禁止

■植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器装着者は発信機から 22 cm 以内に近づかない

(電波によりペースメーカー・除細動器の作動に影響を与えるおそれ)

●自転車本体の後輪サークル錠の発信機からラックシステムの電波が発信されます。



発信機位置
(後輪サークル錠)

⇒そのほかの医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。



必ず守る

■乗車まえに後輪サークル錠が解錠しているか確認する

(解錠していない場合、カンヌキが車輪に引っかかり、転倒によるけがのおそれ)

⇒ラックシステムの場合、相互認証ができておらず、後輪サークル錠が解錠していないときがありますので、必ず確認してください。

安全上のご注意(つづき)



警告

前車輪旋回抑制機構について

前車輪旋回抑制機構(スタピタ 2S) : スタンドを立てるとハンドルが回りにくくなる機構



禁止

■幼児をチャイルドシートの上で立たせない
(前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)



必ず守る

■チャイルドシートのシートベルトを外したらすぐに幼児を降ろす*

■自転車を停止させ、幼児を乗せたまま自転車から離れず、すぐに幼児を降ろす*

※(幼児が立ったりあばれたりすると、前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)

■スタンドを走行状態にしたとき、ハンドルがスムーズに操作できることを確認してから乗る

(ハンドルの旋回が抑制されて、転倒によるけがのおそれ)

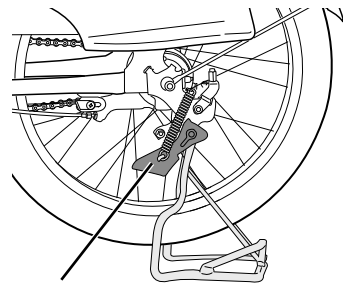
⇒スタンドを跳ね上げてもハンドルの旋回が抑制される場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

スタンドについて



必ず守る

■荷物の積み降ろしや、幼児の乗せ降ろしをする際には、安全のためスタンドロックが正常なロック位置にあることを確認する
(スタンドが跳ね上がり、転倒によるけがのおそれ)



スタンドロック

〈正常な位置〉

■幼児を乗せてスタンドの操作をする場合は、十分練習してから使用する

(ふらつきや転倒によるけがのおそれ)

ボタン・コイン電池について



禁止

■ボタン・コイン電池は次のような使いかたをしない

●充電器などで充電する

●電池を火の中に投入する

●電池をショートさせる

●電池の⊕⊖を逆にして使用する

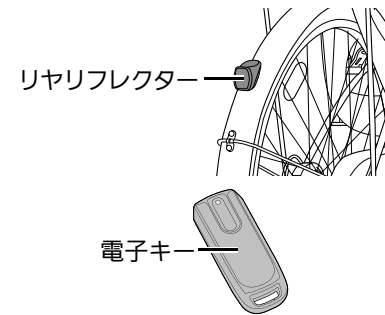
(電池が発熱・液漏れ・破裂によるけがのおそれ)

■ボタン・コイン電池は乳幼児の手の届く所に置かない

(誤って飲み込むと、身体に悪影響)

⇒万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

●ボタン・コイン電池はリヤリフレクター、電子キーに使用しています(種類は違います)。



リヤリフレクター

電子キー

チェーンについて



禁止

■たるんだまま走行しない

(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)

⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

サドルについて



必ず守る

■乗るまえには、必ずがたつきやずれが無い点検をする



舟線 シートポスト

(シートポストや舟線が折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

⇒サドルのがたつきやずれがある場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。



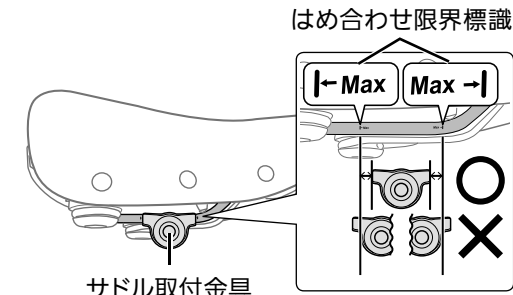
警告

サドルについて



禁止

■サドル取付金具は、はめ合わせ限界標識を越えて固定しない



サドル取付金具

(舟線が折れ、転倒によるけがのおそれ)

⇒固定は販売店にご依頼ください。

定期点検は



必ず守る

■定期点検と整備は、異音が生じたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

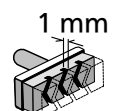
・初回(2か月以内)の点検と整備
お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備
安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

定期点検は

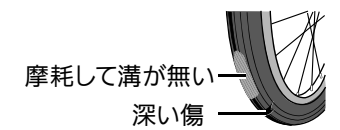
■ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する*

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する*



■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロック(当社品番: NBC064FF)に交換する*

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する*



摩耗して溝が無い

深い傷

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様(88ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。

安全上のご注意(つづき)



警告

自転車に乗るまえに



必ず守る

■乗るまえの点検は必ず行う*



⇒点検の詳細については 37 ページを参照してください。

■自転車を身体に合わせる*



⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。

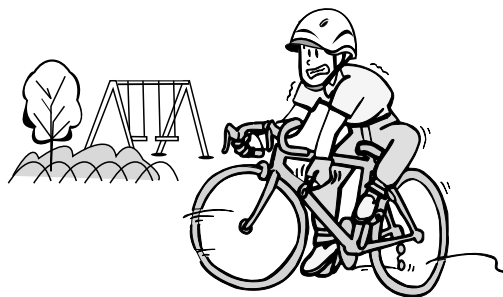
⇒操作して次のことを確認してください。

- ①円滑なペダリングができる。
- ②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
- ③ハンドル操作が容易にできる。



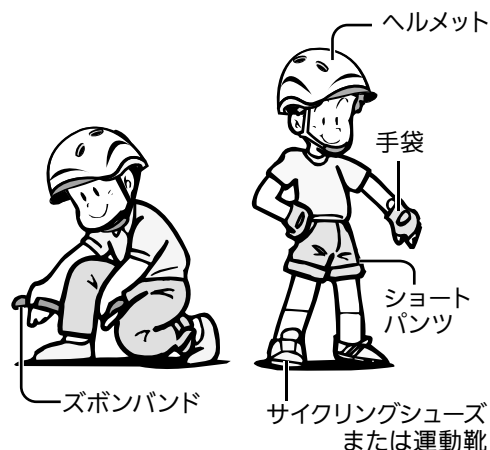
必ず守る

■自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する*



⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。
⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは「ロング」で走行してください(67 ページ)。

■安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)*



⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っ掛けなどを防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。

※(衝突や転倒によるけがのおそれ)



警告

安全に乗るために



禁止

■安全装置は、取り外さない

(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)(36 ページ)

■走行中、手元スイッチの操作をしない

(電源の入切、アシストモードの切り替え、ライトの操作など)

(上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるけがのおそれ)

⇒必ず停止して、操作をしてください。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

■スピードをだしすぎない



(衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ)



禁止

■発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない



(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)

⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない(66 ページ)*

■バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない*



※(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)

(スタンドが変形・破損して、走行中に引っ掛けりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)

⇒スタンドを上げてから乗車してください。

■後輪サークル錠は走行中に作動させない

(車輪がロックされ転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

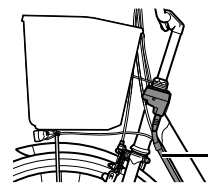
安全に乗るために



禁止

■パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない
(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■走行中にスタンドを下げたり、スタピタワイヤを引っ張らない



スタピタワイヤ

(ハンドルが固定され、転倒によるけがのおそれ)

■けんけん乗り(けり乗り)しない



(転倒や接触事故によるけがのおそれ)

⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。

●けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

変速するときは

■一度に2段変速しない
(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれ)
⇒1段ずつ変速してください。

■ペダルを踏み込みながら変速しない
(変速操作に対し、実際のギヤの切り替えが遅れ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



禁止

荷物を積むときは



禁止

■積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない(☞58・59ページ)



(リヤキャリアやフレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)

■リヤキャリアを変造および改造はしない
(部品が破損したり、外れたりし、転倒によるけがのおそれ)

■荷物を載せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない
(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるけがのおそれ)
⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。



必ず守る

■荷物でリヤリフレクターが隠れないようにする
(事故によるけがのおそれ)

■荷物は確実に固定する
(バランスを崩したり、ひもやベルトを後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれ)

■荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車する
(自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、ブレーキの利きが悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)



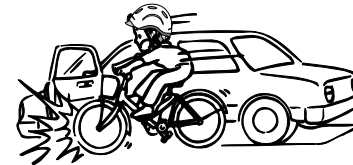
警告

交通事故を防ぐために



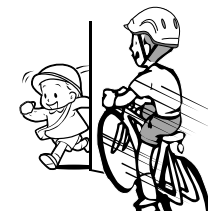
車の横を走るときは!

■開くドアや人の飛び出しに注意する※



学校や公園が近くにあるときは!

■子供の飛び出しに注意する※



交差点を通るときは!

■左折車に巻き込まれないように注意する※



※(事故による重大なけがのおそれ)

自動車や子供に注意!
安全を確認し、乗りましょう



転倒事故を防ぐために



禁止

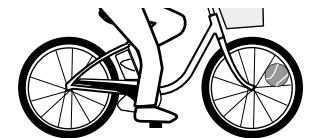
こんな使いかた

■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)

■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

こんな乗りかた

■傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない※



■路上の異物を不用意に踏まない※

■車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない※

■ブレーキをかけたときにブレーキブロックがタイヤに接触していたり、リムからはみ出していないかを確認せずに乗らない※

※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

転倒事故を防ぐために



禁止

- 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 巻き込みやすいものを車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



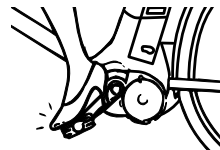
(車輪やギヤに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

- 土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

- 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

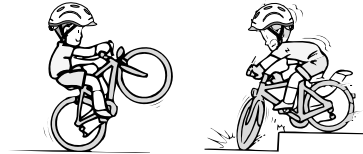


(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)



禁止

- アクロバティックな乗りかたはしない※
- 段差の乗り降りをしない※



※(転倒や落車によるけがのおそれ)

- カーブで曲がる側のペダルを下げない



(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)

- 合図以外は、ハンドルから手を離さない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



警告

転倒事故を防ぐために



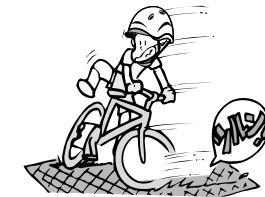
禁止

- 雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩したり、スリップすることで転倒によるけがのおそれ)
⇒雨の降り始めでも、路面の一部がぬれ、滑りやすくなります。乾いた路面からぬれた路面に入るときはスリップによる転倒に注意してください。

- 滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道・ぬれた路面・石板(大理石など)・マンホールや側溝のフタ・路面上の表示(白線など)・タイル張りや点字ブロック・路肩の砂や砂利・ぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

- 凹凸の激しい所を走らない(歩道の段差や、溝など)



(フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

保管するときは



禁止

- 不安定な場所に自転車を保管しない
(自転車動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

運搬するときは



必ず守る

- 自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)

包装の袋などは



禁止

- 取扱説明書が入っているポリ袋や、サドル・バスケット・付属品などのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない
(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■チャイルドシートに幼児を乗せる場合は
51～59 ページの内容に従う
(幼児が落下して、けがをするおそれ)

■乗車および走行中は、必ず幼児にヘルメット(SG 規格適合の自転車用ヘルメットと同等以上のもの)を着用させる



(幼児がけがをするおそれ)
⇒ヘルメットを着用させないでチャイルドシートに子供を乗せると、事故時に致命的な傷害を受ける確率が高くなります。

■適用年齢、体重制限、自転車のリヤキャリアに表示されている積載重量、身長制限、定員を守る(51・58～59・91 ページ)※

■乗車および走行中は、必ず幼児にグリップを持たせ寝ないように留意する※

■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる※
(※(幼児が落下して、けがをするおそれ)

■幼児を乗せるときは必ず靴をはかせる
(幼児の足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)

■走行中は、幼児の足部に注意する
(足のせ部分(ステップ)から外れると、足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)

■幼児の体重は、チャイルドシートが指定する最大適用体重以下であることを確認する(58 ページ)
(適用体重を越えて乗車すると破損・折損が生じ、事故またはけがをするおそれ)
⇒本自転車は幼児 2 人同乗用自転車です。幼児 2 人を乗せる場合は、弊社指定のチャイルドシートを装着してください(91 ページ)。



必ず守る

■使用中、幼児の手足が届く範囲に錠がある場合は、幼児が操作しないように注意する
(車輪がロックされて自転車が転倒し、けがをするおそれ)

■ヘッドレストが幼児の頭部中心(耳の上)よりも高くなっているか確認する※

■ヘッドレストが確実に固定されているか確認する※
(※(幼児がけがをするおそれ)

■ヘッドレストの高さ調節をしてからシートベルトの調節をする
(シートベルトの締め過ぎや緩みによる落下により、幼児がけがをするおそれ)

■幼児は荷物などよりもあとに乗せ、最初に降ろす※

■幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ず幼児を抱いて行う。また、スタンドロックがかかっているか確認して行う※



スタンドロック

■スタンド操作時は、ハンドルや車体をしっかり押さえる※

■グリップバーが確実に固定されていることを確認する※
(※(自転車転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

■幼児を乗せるときは、安全の確保できる場所で十分練習してから乗車する
(自転車にチャイルドシートを取り付け、幼児を同乗させることにより、自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、転倒によるけがのおそれ)

■急ブレーキ、急ハンドルは避ける
(転倒や衝突によるけがのおそれ)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■炎天下での駐輪時、チャイルドシートが熱くなっていないか確認してから幼児を乗せる
(幼児がやけどをするおそれ)

■付属のクッションやカバー類は正しく使用する
(誤って使用すると、幼児がけがをするおそれ)

■幼児を乗せるまえに、後輪サークル錠解錠動作を行い、後輪サークル錠が解錠していることを必ず確認する
(後輪サークル錠が施錠状態のままスタンド解除動作を行うと、車体のバランスが崩れて転倒し、けがのおそれ)



禁止

■チャイルドシートに幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない
(車輪やギヤに手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)

■チャイルドシート以外の場所に幼児を乗せない※

■チャイルドシートに幼児を乗せているときは、短時間であっても、自転車から離れない※

■幼児を乗せたまま駐輪しない※

■グリップバーを持って自転車を動かさない※
(※(自転車転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

■チャイルドシートには荷物を載せない
(バランスを崩し、自転車が転倒し、けがをするおそれ)

■当社自転車用のチャイルドシート(前用)のため、ほかの目的(バスケットとして荷物を載せるなど)に使用しない
(チャイルドシートが破損して、幼児がけがをするおそれ)

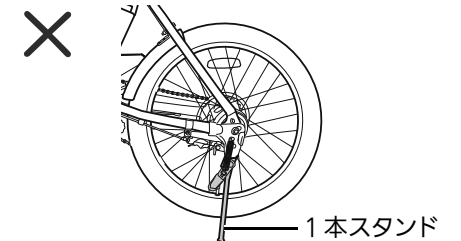


禁止

■チャイルドシートには幼児は 1 人しか乗せない※
■チャイルドシートが、自転車に確実に取り付けられていることを確認し、ねじの緩み・破損・変形などがある状態での使用はしない※

■転倒などの強い衝撃を受けたチャイルドシートは、固定部のがたつき・変形・ひび割れなどの異常があれば使用しない※
(※(幼児が落下して、けがをするおそれ)

■1 本スタンドに交換しない



1 本スタンド

(自転車転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)
⇒必ず、純正の両立スタンドをご使用ください。

■チャイルドシートを改造したり、不当な修理をしない
(思わぬ事故につながり、けがをするおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■リヤキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、リヤリフレクターの後方からの視認を妨げないように取り付ける
(視認性が悪くなると、事故によるけがのおそれ)

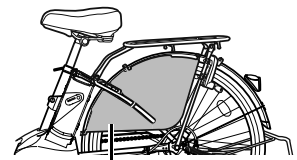
■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる
(幼児が落下して、けがをするおそれ)
⇒乗せることができる幼児は、年齢 1 歳(12 か月) 以上ですが、特にチャイルドシート(後用)は目が届きにくいいため、幼児が急に立ちあがったりしても気づかないおそれがあります。必ず、シートベルトを装着してください。

■幼児を乗せた状態で押し歩きする場合は、ハンドルを両手でしっかり押さえる



(後方へ転倒したり、幼児がけがをするおそれ)
⇒ハイバック式チャイルドシートでは重心が後寄りになりますのでご注意ください。

■リヤキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、ドレスガードが取り付けられているか確認する



ドレスガード

(車輪に手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)
⇒ドレスガードが装備されていない場合は、販売店にご相談ください。

■走行中は、幼児の足が車輪に巻き込まれないよう、幼児の足はステップに乗せる
(幼児の足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)



必ず守る

■幼児を 2 人乗せることにより全体の質量が増大し、衝突などの際の衝撃が大きくなり同乗幼児および乗員の被害が大きくなるので十分に注意する。また、歩行者などと衝突した場合には歩行者などの被害が大きくなるので十分に注意する
(バランスを崩し、接触事故などによるけがのおそれ)



警告

自転車の交通安全ルールについて



禁止

■次の様な運転は絶対にしない*

- ヘッドホンを使用しながらの運転
- 飲酒運転 ●傘差し運転 ●2 人乗り
- 携帯電話を操作しながらの運転
- 信号無視 ●並進

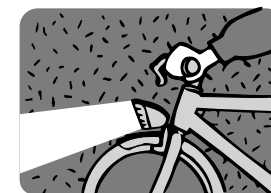


⇒小学校就学の始期に達するまでの者をチャイルドシートに 1 人乗せる場合などを除き、2 人乗りは禁止です(幼児 2 人同乗用自転車を除く)。
⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。



必ず守る

■夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する*

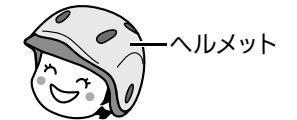


⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう。
⇒見通しが悪くなり、また自動車から見えにくくなりますので危険です。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。



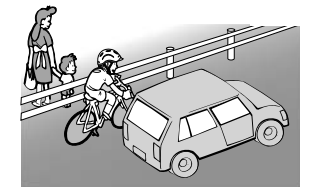
必ず守る

■保護者は 13 歳未満の子供が乗車するときは必ずヘルメットを着用させる*



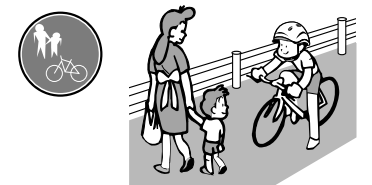
ヘルメット

■自転車は、車道を通行する*



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。
⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

- 自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合
- 運転者が児童、幼児、70 歳以上の場合
- 車道や交通の状況から見てやむを得ない場合



⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。

■交差点では一時停止と安全確認を行う*



⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。
⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

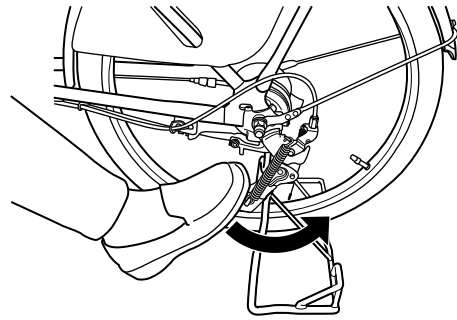
各部のなまえとはたらき(つづき)

■スタンド(かるやかスタンド)について

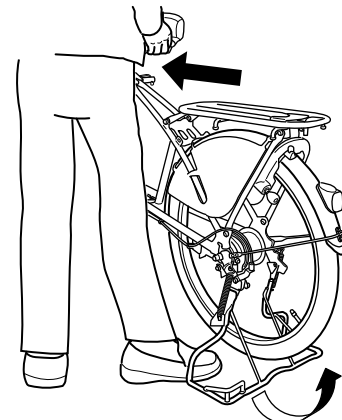
このスタンドは、駐輪するときにスタンドの端を足で踏むようにすると、幼児や荷物を載せた状態でも比較的楽に立てることができます。

〈スタンドの跳ね上げかた(乗車するとき)〉

- ①両手で自転車を支え、スタンドロックを足で後ろへ押してロックを解除する

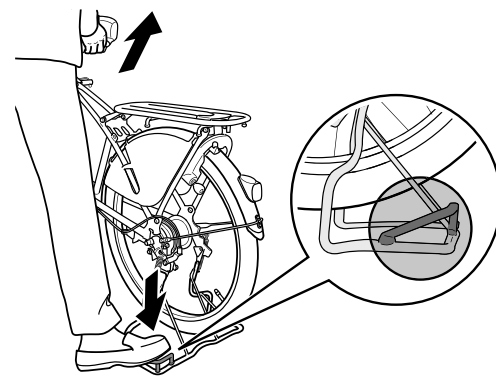


- ②自転車を支えながら前へ押し、スタンドを跳ね上げる



〈スタンドの立てかた(駐輪するとき)〉

- ①ブレーキを握ったままサドルから降りる
- ②左手でハンドルを持ち、スタンドの●の位置を足で踏む
- ③右手でサドルを引っ張り、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にがかかります。



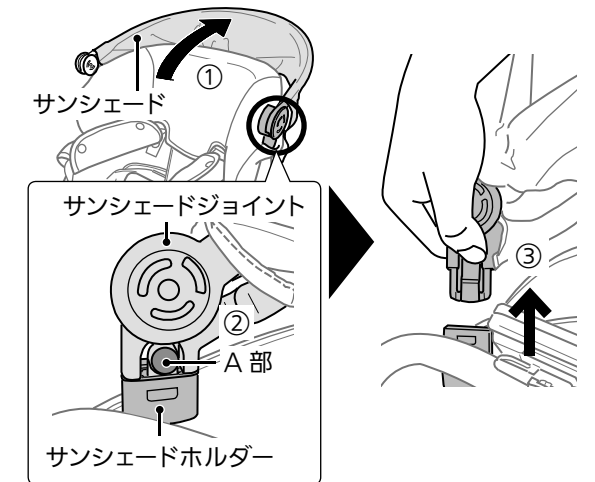
お願い

- 油切れや変形などで、スタンドロックが自動でかからない場合があります。駐輪時には必ず、スタンドロックがかかっているか確認してください(71 ページ)。

■サンシェードについて

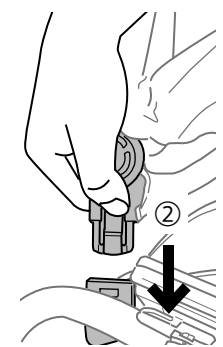
〈サンシェードの取り外しかた〉

- ① サンシェードを小さくたたみ、
- ② 左右のサンシェードジョイントの A 部を指先で押しながら、
- ③ サンシェードホルダーから引き抜いて取り外す



〈サンシェードの取り付けかた〉

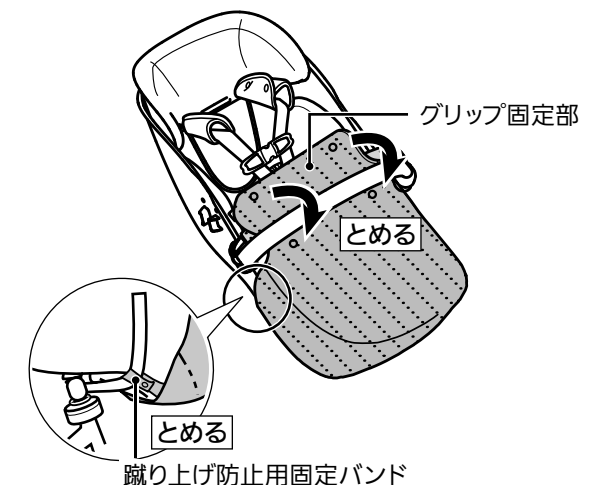
- ① サンシェードジョイントをヘッドレスト側面のサンシェードホルダーに合わせ、
- ② サンシェードジョイントをしっかり差し込み固定する



■フットカバーについて

〈フットカバーの取り付けかた〉

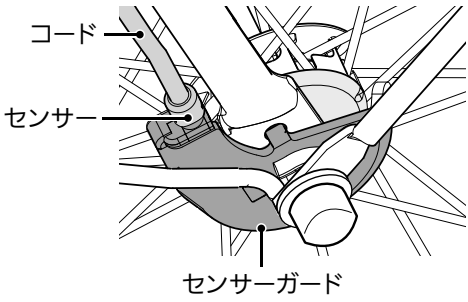
- ① 本製品を広げ、取り付け方向を確認し、チャイルドシートの底部に沿わせ、かぶせる
- ② チャイルドシートのグリップバーにグリップ固定部を巻き付け、ホック(2 か所) でとめる
- ③ 蹴り上げ防止用の固定バンド(片側のみ) を自転車のハンドル部に巻き付けホックでとめる



乗るまえの点検と調整(つづき)

②④ スピードセンサー(調整は販売店にご依頼ください)

- ☐ センサーの固定は確実か?
- ☐ コードに断線や損傷は無いかな?
- ☐ コードはしっかり固定されているかな?
- ☐ 車輪を回転させたときに、異常は無いかな?



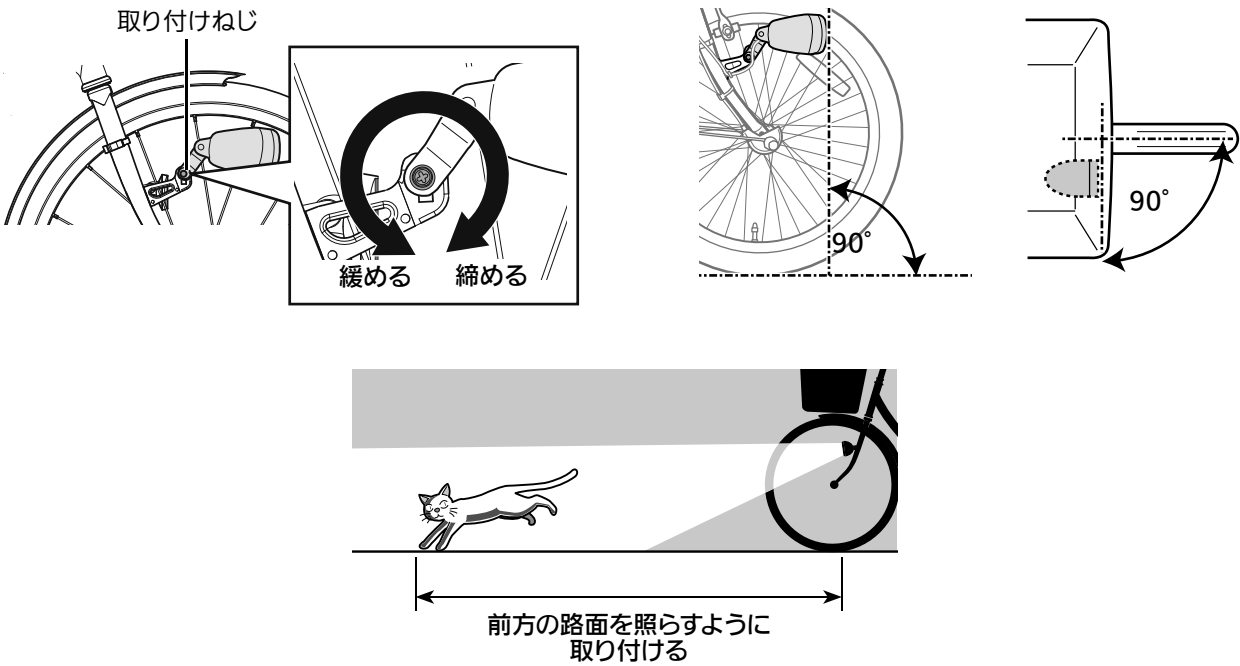
②⑤ フロントリフレクター一体型バッテリーライト(調整は販売店にご依頼ください)

- ☐ 点灯するか?
- ☐ 取り付け角度は適切かな?
- ☐ 割れやがたつき、汚れは無いかな?
- ☐ コードにたるみ・断線・損傷は無いかな?
- ☐ 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているかな?

〈ライトの角度〉

フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。

使用工具：スパナ(10 mm) またはボックスレンチ(10 mm)
締付トルク：(6～7) N・m{(60～70)kgf・cm}



お願い

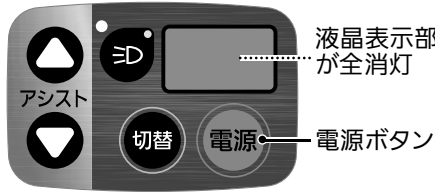
- 対向者(車) にまぶしくならない角度に調整してください。

お知らせ

- 内部の LED は、基板直付けのため交換できません。

充電しましょう

1. 電源ボタンを押して電源を切る

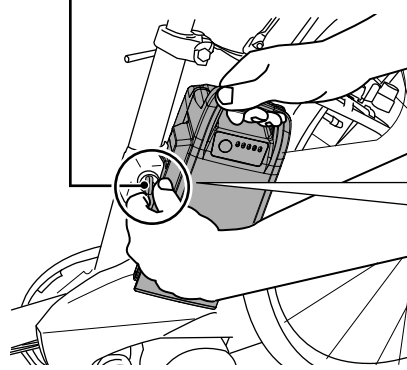


お知らせ

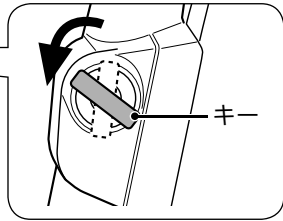
- 電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す

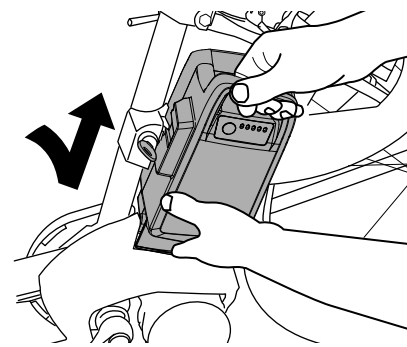
バッテリーロック



- ① バッテリーロックにキーを差す
- ② バッテリーを支えながら、キーを反時計方向に止まるまで回しロックを解除する
・キーは解錠状態のまま固定できます。



- ③ バッテリーを両手で支えながら、引き上げて外す
- ④ キーを時計回りに止まるまで戻してから、引き抜く



⚠ 注意

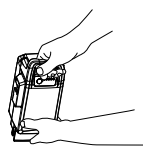


■ バッテリーを幼児の手の届く所に置かない※



必ず守る

■ バッテリーを支えてからキーを回す※
■ バッテリーは両手で扱う※



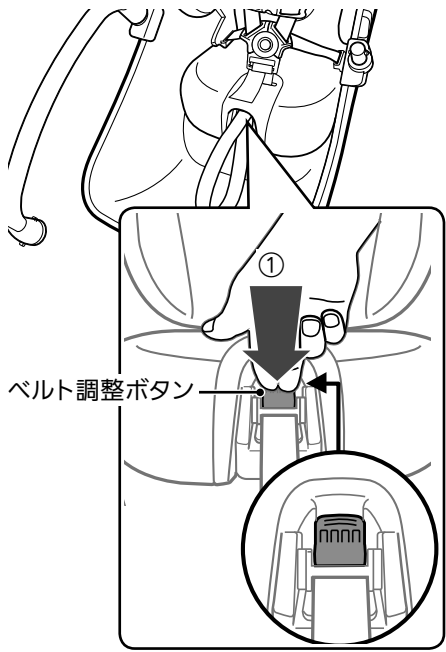
※(落下して、けがをするおそれ)

お願い

- バッテリーを取り外したあとは、キーを抜いて保管してください。

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

3. シートベルトを緩める



① ベルト調整ボタンを奥へ押しながら、



注意



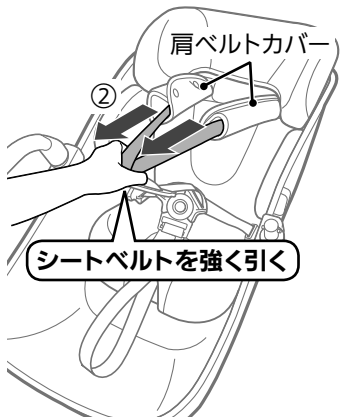
必ず守る

■爪を伸ばしていたり、付け爪をしている場合、拘束や調節操作をするとき十分注意する
(巻き込まれ、けがをするおそれ)

② 左右のシートベルトの両方を持ち、手前に強く引き、緩める

お願い

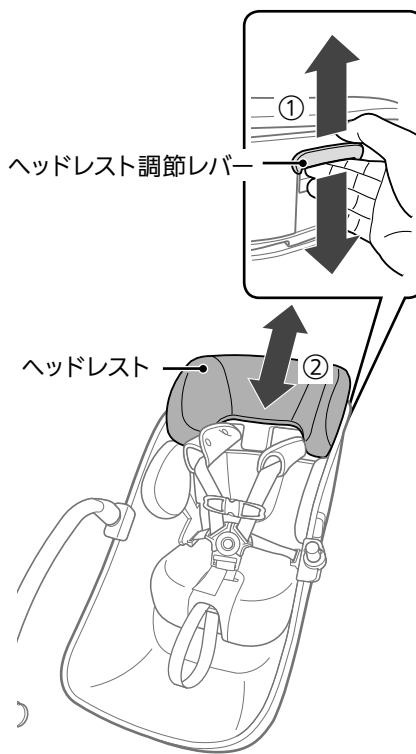
●肩ベルトカバーを引いても、シートベルトは緩まず、肩ベルトカバーや肩ベルトスプリング(75 ページ) が外れてしまうので、ベルトだけを引いてください。



肩ベルトカバー

シートベルトを強く引く

4. ヘッドレストの高さを調節する

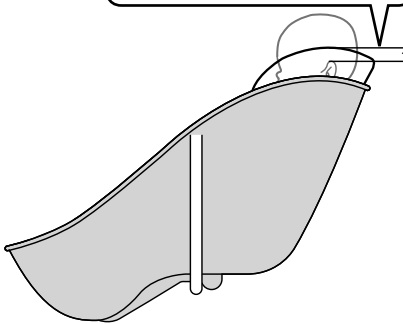


ヘッドレスト調節レバー

ヘッドレスト

高さの目安

ヘッドレストがお子様の
耳より高くなっていること



お願い

●ヘッドレストの高さ調節と連動してシートベルト(肩部) の位置も変わります。下記を目安にヘッドレスト位置を調節してください。

① ヘッドレスト調節レバーを引きながら、

② ヘッドレストを上下に動かし位置を調節する

お知らせ

●シートベルトを緩めないと、シートベルトが突っ張り、ヘッドレストの高さ調節ができません。



注意



必ず守る

■ヘッドレストの上下スライド時に手や指の位置を確認する
(指を挟んだり、けがのおそれ)



警告

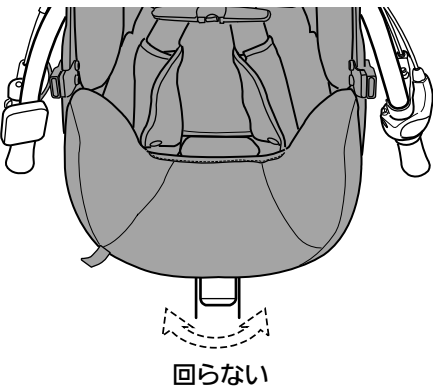


必ず守る

■ヘッドレストが幼児の頭部中心(耳の上) よりも高くなっているか確認する
(幼児が落下して、けがをするおそれ)

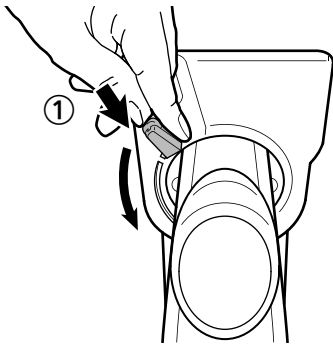
■ヘッドレストの高さ調節をしてからシートベルトの調節をする
(シートベルトの締め過ぎや緩みによる落下により、幼児がけがをするおそれ)

3. ハンドルの状態を確認する



- ① スタンドのロックがかかり、ハンドルが容易に回らないことを確認する

4. 後輪サークル錠を施錠する



- ① 後輪サークル錠のつまみを押し込みながら、下へ止まるまで回す

お願い

- 必ず車輪の回転が止まってから、後輪サークル錠を施錠してください。スポーク・後輪サークル錠が接触すると、スポークや錠前または錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。
- 駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。

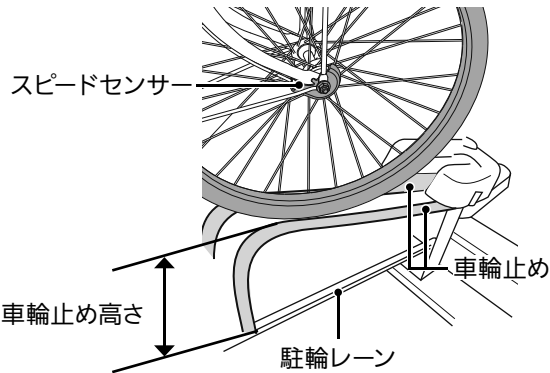
駐輪場をご使用になるときは

駐輪時、駐輪レーン上の車輪止め高さにより、駐輪設備に適應しない場合があります。駐輪場にてご確認の上、ご使用ください。

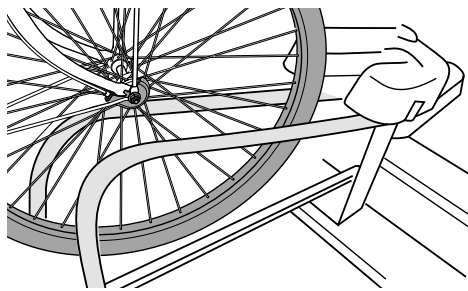
●車輪止め高さの確認

スピードセンサー下端までの高さ	約 22 cm
-----------------	---------

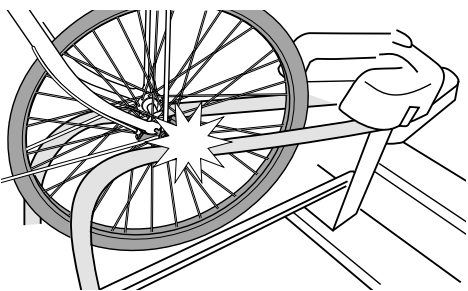
- ・自転車を左右および斜めに倒しても、車輪止めにスピードセンサーが接触しないことを事前に確認してください。接触する場合は駐輪レーン付駐輪場のご利用はお控えください。スピードセンサーが変形したり破損するおそれがあります。



※上記レーンのイラストは一例です。



〈○ スピードセンサーが接触していない〉



〈× スピードセンサーが接触している〉

●スピードセンサーが変形・破損した場合

スピードセンサーが割れている、フロントフォークと接触・変形・破損などしている場合は、お買い上げの販売店へご相談ください(破損したまま走行すると、手元スイッチにエラー表示が点灯する場合があります)。

お手入れについて(つづき)

チャイルドシート本体・パッド・グリップバーのお手入れのしかた

- 通常は、固くしぼった布で水ぶきしてください。
- 汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水ぶきし、日陰で乾燥させてください。

サンシェードのお手入れのしかた

- サンシェードは液中につけず、洗剤を入れた水、またはぬるま湯につけたスポンジなどを使用して、汚れをふき取ってください。
- 洗剤を使用して汚れを取ったあとは、水分を含ませた布やスポンジで洗剤分が残らないように数回ふき取ってください。
- 乾かすときは、乾いた布で水分をふき取り、陰干ししてください。
- 製品の特性上、若干色あせすることがあります。

フットカバーのお手入れのしかた

- 洗濯機をご使用のときは、洗濯用ネットに入れて、洗濯してください。ほつれや傷みの原因になります。
- 水、またはぬるま湯で洗濯機の弱水流または手洗いしてください。
- 洗濯の際は、中性洗剤をお勧めします。蛍光剤・漂白剤入りの洗剤は肌荒れ、湿疹などのおそれがありますので使用しないでください。
- 製品の特性上、色あせすることがあります。
- 色落ちすることがありますので、ほかの洗濯物とは別に洗ってください。また、つけ置き洗いも避けてください。
- 十分にすすぎ、軽く脱水したあと、形を整えて陰干ししてください。
- 乾燥機の使用やドライクリーニングはできません。

交換用純正品品番					
色			品名		
パッドの部位			品番		
ネイビー	頭部	NCD545K	グリップバー(ネイビー)	NCD014H	
	側面部(左右セット)	NCD548K	グリップバー(ブラウン)	NCD015H	
	背面部	NCD546K	ヘッドレストカバー(ネイビー)	NCD492K	
	座面部	NCD547K	ヘッドレストカバー(ブラウン)	NCD493K	
ブラウン	頭部	NCD549K	肩ベルトカバー	NCD557K	
	側面部(左右セット)	NCD552K	肩ベルトスプリング	NCB237K	
	背面部	NCD550K	サンシェード	NAR190	
	座面部	NCD551K	フットカバー(ネイビー)	NAR186	
			フットカバー(ブラウン)	NAR185	
			シートクッション(ネイビー)	NCD537K	
			シートクッション(ブラウン)	NCD538K	

お願い

- 炎天下で放置した場合に色あせや変形することがあります。交換する際は上記純正品を使用してください。

